



**写真等無断転載禁止**

2022. 4. 6 発行 ニュースレター第296号

〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表: 小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

## 刈払機講習を受講して

令和4年2月20日(日)稲毛海岸にて森林組合の小林様を講師に迎え、刈払機講習を受講しました。

私は普段から刈払機を使用する職に就いている訳ではなく、自宅の狭い庭の草刈りは手作業で十分済んでしまいます。ただ、仕事柄、先輩に教わりながら見よう見まねで数回使ったことがある程度でした。しかし、講習の中で誤った使用方法による事故事例を学び、いかに危険なことだったかということが身に染みしました。無知とは恐ろしいもので、ホームセンターで販売されていることもあり、なかなかしっかりとした安全教育を受けようと思えない方も多いのが現状ではないでしょうか。

こういった安全衛生研修は、一見その機械を使う人にしか役に立たないと思われがちですが、道具の手入れや危機管理など、生活の上で携わる様々な分野にも繋がる部分があり、また、いざというときに自他の命を助ける力となり得るものです。アマチュアの人間にこそ広く開かれるべきであり、身近にこ

千葉市中央区 小嶋 拓也

のような研修の場が増えていくことを願ってやみません。

また、時間の都合で詳しく聞けませんでした。個人的には刈刃の目立てに興味を惹かれ、また機会を見つけて学んでみようと思います。



刈り払い機を分解して内部の状態を確認(2022年2月20日)  
稲毛海岸ベイマークスクエアカルチャーハウスにて

## 「春の香り」

千葉市中央区 中学1年 小橋 里菜

3月19日の「野草を摘む会」に参加し、南川さんのクイズに答えながら楽しく野草を摘むことができました。私はクイズに優勝できたのでスタッフさんたちおすすめのニワトコを沢山いただきました。

午後は合計13人で伊勢戸さんの事務所まで歩きました。道がぬかるんでいましたが、小さい女の子も頑張って歩きました。途中で見つけたウシガエルの卵らしき物にみんな興味津々でした。

ヨモギ、ノビル、ツクシ、ニワトコ、椎茸を持ち帰り、母に調理してもらいました。特にニワトコとツクシの天ぷらがさくさくで、春の香りがしました。家で食べる野草は思った以上においしかったです。野草パワーで今年も米作りを頑張れる気がしました。



ヨモギやノビルを摘みました



最後は全員マスクを外して記念撮影

# 自然環境保護におけるビオトープ池での トンボとアメリカザリガニについて②

房総蜻蛉研究所代表 市川市 互井 賢二

会長が2013(平成25)年に松岡洋氏に代わりここから「第二期」が始まる。アメザリ駆除は続けられていた。2013年3月～11月21日(252日間)までの捕獲数は513匹で2012年より捕獲数が多くなっている。この年から会員で分担して作業が行われる方向になり延べ人数は500名を越えていた(一日平均2名)。育成池ではアサザが5月22日から開花し始め9月12日までに延べ開花数4505花、9月9日には248花が咲いた。

2014(平成26)年は、酒井会員の早朝活動により3月16日～10月12日(174日)で捕獲数は770匹で2013年より更に多くなった。

2015(平成27)年には酒井・山村会員により駆除のかご上げが3月9日～10月12日の間継続、

2016(平成28)年にはモンドリ籠を毎日池に投入した結果、9か月間で約4,000匹を捕獲した(酒井・山村・渡辺会員)。いよいよ、「実験」的であれ、育成池への植え付けが始まる。試行錯誤の連続ではあるものの、一段階本チャンに踏み出した。ここからは「第三期」とする。

2017(平成29)年に葛飾区ビオトープでの「ザリガニ」対策方式を踏襲し、育成池で本格的な実験を開始する。麻布(あさぬの)囲いとハンモック式でザリガニから3重に守る方法で、ジュンサイ、アサザ、コウホネの植え付けをする。麻布の外側に合成化学繊維製ネットをかけたが、それまででもアメザリに茎を切られて、ジュンサイとアサザが「失敗」。かろうじてコウホネだけが「成功」した。



水元公園(東京都葛飾区)2015年4月29日

筆者は、桶ヶ谷沼での同じアメザリ問題でトロ舟水槽群を設置した例を知っていたので、池とは別に「トロ舟」によるジュンサイや他の水草の育成を行い、増殖させていく必要性を筆者が説いたことがある。トンボにとっての「水辺(生息)環境作り」という事が大きかったが、それはジュンサイ再生事業推進となるこ

とと“一致する”と思つてのことでもあった。

メインのジュンサイの「池」での植え付け「失敗」のため、基本的にはアメザリ駆除のもう一段強化遂行なしにはいくら育成池にアメザリ対策を施して植え付けを行うも「無駄だ」と痛感させられ、改めてアメザリの脅威の凄さが分かったわけである。これ以降アメザリ駆除作戦の一層の強化をし、駆除への体制を継続した。



アサザ(2006年8月29日、銚子市)

2017年は3月末～11月末までの8か月間ほぼ毎日捕獲作業を実施する。捕獲籠数を12個(「カニかご」と「魚取りかご=お魚キラー」の2種)を使用し、会員7名の協力体制を組む。「育成池」を中心に「本池」、「第2調整池」にも拡大して設置。捕獲総数は5,134匹となる。

2018年は、3月16日～11月30日まで203回、捕獲総数2,840匹となる(酒井会員中心に、木曜日2名、金曜日3名、他に千葉商科大学杉田ゼミ生が協力)。

2019年に、禿雅子現会長になる。アメザリ駆除活動は更なる飛躍が生まれる。

2019(平成31・令和1)年は、3月11日～12月28日(今までの11月末から12月まで延長)まで199回、捕獲総数2,473匹となる。この年、平日の月曜から金曜日までの会員有志によるローテーションによる協力体制になる(月曜1名、火曜1名、水曜2名、木曜2名、金曜3名)。その他に千葉商大杉田ゼミ生、「日曜日」の作業日や観察会の日、解放日があり、また自主的に来園し、かご上げ活動がされているので、1か月ほぼ毎日の活動となる。

2020(令和2)年は、3月9日～12月25日まで280回、捕獲総数2,895匹となる。駆除の協力体制は、月曜日2名、水曜日3名、金曜日3名になる。サイズがかなり小さなものも多くなってきている。

今まで触れてこなかったが、トロ舟水槽も水草育

成のために15基用意しており、アメザリはそこにも侵入し始める。そこでトロ舟水槽にも駆除のかごを設置する。116匹を捕獲する。以上のようにアメザリ駆除作業は続いているわけであるが、今までの作業の効果は徐々にではあるが表われてきている。

また、本来の目的であるジュンサイ復活・再生に向けての努力が様々に続けられているが、今まで、そして今後も続けていかざるを得ないアメザリ駆除を中心とした外来種の駆除は、ミシシピアカミミガメ、ウシガエルなど他の外来種駆除も同時に行われている。余談だが、池にかごを仕掛けていると「思わぬもの」も入っていたりしてビックリする。大ナマズ(ニホンナマズ)、特大モズクガニ、スッポンなどであるが、時にギンヤンマ属のヤゴがかかる場合もある。ヤゴはトロ舟水槽に仕掛けたかごに入ることが多い。



ナマズ(2009年7月20日、都川産)

「アメザリ駆除」を中心とした外来種駆除作業など池のマイナス面での環境整備事業をX軸だとすると、ジュンサイを主とした水草増殖作戦など池のプラス面での環境整備・保全事業がY軸となろう。それぞれの軸の進捗状況により、目標に近づくわけである。

ここでは紙面の関係でY軸の方の詳細は触れないが、一方で池のアメザリ駆除=池への植栽化環境整備を行いつつ、他方で池への植生事業を円滑に行っていくためにも(というのは池への移植はアメザリの根絶はできないであろうところから、多くの「失敗」を伴うであろうことを見越し多くの株が必要になる為の準備として)、分けてもらったジュンサイ

の株を増やすという増殖作業を別に行っていく必要がある。

現在では当初から使用している山形県産のジュンサイではなく、千葉県印旛沼産系統のジュンサイを千葉県中央博物館から3株分けて頂き増殖している。また、それだけでなく池に浮葉・沈水植物(水草)がなくなっている所から「トロ舟水槽」を並べて水槽ごとに水草の種を分け「ビオトープ」を作り、深く広い解放水面があるが浮葉・沈水水草が何もない貧相な「池(本池・育成池)」と浅いが豊かかつ多様な水草環境がある「トロ舟水槽群」との相互連関化する総合的水辺環境を創出している。

「トロ舟水槽群」はかつてあった蓴菜池の小規模な先行的再現でもある。そんな人工的な水辺環境再現の中でトンボ達はうまく利用をしている。小さな水槽群にはアジアイトトンボが多く、トロ舟水槽群にはアオモンイトトンボが多い、また、ショウジョウトンボも利用し、クロスジギンヤンマやギンヤンマなども産卵をして利用している。水草がうまく棲み分けを助けトンボ相は非常に豊かになってきた。驚くことには草に覆われた小さな浅い水域の水槽をマルタンヤンマも利用したという事である。

ヤゴ調査で2頭のヤゴが発見された。池に繁茂するジュンサイの浮葉と小豆色の花が咲いている光景を想像しつつ、その「夢」を実現することに会員がお互いの協力体制を作り、ある意味、整備作業や四季折々の「自然観察」会(トンボを始めクモや甲虫などの昆虫や水草植物の)を通じて皆が楽しんでいる。今は道半ばで、この先の道はまだ長いので「急ぐが焦らず楽しく」進むことが肝要であるようだ。

(写真撮影：田中正彦)

#### 【参考文献】

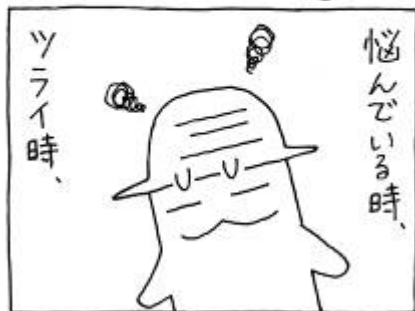
阿部則雄・松木和雄, 2021 大柏川第一調節池緑地・ミニ自然園のトンボ. 房総の昆虫 (68) : 1-11.  
寺沢廣・松岡洋・小出祥二郎・禿雅子・山崎-名取史織, 2013 千葉県市川市じゅん菜池におけるジュンサイ育成の取り組みとアメリカザリガニの捕獲作業. 水草研究会誌 (100) : 35-41.

## 新浜の話50 ～最優秀賞～

「よみがえれ新浜—水質浄化と水鳥の誘致」と題した私たちのプロジェクト。「水の染め分け」「水車直下で見つけた1匹の赤虫」に始まって、市役所や県の理解、協力を勝ち得て保護区内に造成した100m四方の新しい池。そして、造成後1ヶ月で羽化したトンボ、春の小川が完成すると、待っていた

### 千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

ように海から上がってきた「ウナギの赤ちゃん」、更には「セイタカシギの集団繁殖」。結局巣を作った8組のつがいのうち4組でヒナがかえり、計8羽の若鳥が巣立ちました。水質浄化も予想したように順調でした。プロジェクトを進めている自分たち自身ですら、あまりにもよくできすぎた話と思うほど。



つやまあまひのウェブサイト  
21世紀絵コジ〜 <http://www.21eco.net>

それでも、この2年間の結果をレポートにまとめ、更には成果報告会で25分ほど、わかりやすく発表しなくてははいけません。今、当たり前のように用いられているエクセルは、当時はまだありませんでした。表やグラフはすべて手書き。パワーポイントももちろんないので、スライドで。とりまとめや発表は私の担当分。いちばん面白かったのは底泥水質のデータで、おそらく日光の届く限界であろう水深30cmを臨界点として、それより深くなると、汚濁物質が一挙に数倍に跳ね上がる様子など、棒グラフよりもわかりやすい色分けしたメッシュグラフで表現したりしていると、時が経つのを忘れます。

成果報告会が近づいてくると、毎週のように皆の前で発表の予行練習をさせられました。口の悪いお仲間のこと、まあ遠慮会釈のかけらもなく、こてんぱんに、言いたい放題言ってくれること。

練習その1 「へたにまとめようとするから、ちっともおもしろくないじゃないの」

練習その2 「なんでグラフなんか出すの。あんた、よそのグラフ見たってわからないでしょ」

練習その3 「もうしょうがないよ。好きなようにやんなさい」  
実は内心、この一言を待っていました。

映画製作者の故鈴木有さんのおかげで、活動の様子を撮影した「バックグラウンド・ビデオ」もできました。説明と画面は一致していません。1988年11月30日、いよいよ成果報告会当日。六本木にある国際文化会館は、きれいに紅葉した桜の葉が散っていました。急坂を上がったおなじみの会場。報告の重圧がなければ、お庭の眺めや同期のみなさん、関係各位の方々との情報交換が楽しめたはずなのに。

他のチームの発表の間も、私はスライドの順番を頭の中でさらうのに必死。原稿どころかメモも作らない習慣で、前の方の発表を聞きながら、自分の話を組み立てます。さあ、いよいよ私の番。

1989年1月下旬になって、最優秀賞受賞の内定通知がありました。最優秀賞の受賞者には、基金の形での2千万円か、使い切りの形での1千万円か、どちらかの形での資金援助が得られます。独立した法人格を目指していた友の会は、基金としての2千万円を選びました。ありがたいことには、(財)山階鳥類研究所がこの基金を10年間預かってくださることになりました。

10年後の1998年12月、NPO法が施行されました。従来の財団法人、社団法人、会社、学校、宗教などに加えて、新たにNPO法人が仲間入りして、私たちもNPO法人を目指すことになりました。

**会費納入のお願い：ニュースレターに振込用紙を同封いたしました。2022年度の会費納入をお願いいたします。正会員5000円、一般会員2000円です。よろしく願いいたします。郵貯ダイレクトでのお振込も歓迎します。**

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2022年 5月号(第297号)の発送を 5月6日(金)10時から千葉市民活動支援センター会議室(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

あなたも入会しませんか ..... キリトリセン .....

住所 〒

ふりがな 氏名 \_\_\_\_\_ 男 女 Tel \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

編集後記：今年も生きもののための米づくりが、下大和田で始まりました。3月19日の説明会には3組の新しい家族が集い、26日に種まきを行いました。なれない泥田に戸惑いながらも楽しそうな子どもたちの笑顔に心が和みました。平和であって初めて体験できる自然とのふれあいです。  
mud-skipper

会費の郵便振替口座は00130-3-369499です。

NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。(カット:こまちだ たまお)



## ○第 202, 203 回 小山町 YPP「田作り(苗代作り1・2)」3月26日(土), 4月2日(土)

3月26日、小山谷津最初の苗代作りが始まりました。小学校田んぼ用のコシヒカリと、YPP 田んぼ用のコシヒカリ、古代米(黒米,赤米)、それぞれの苗代、計5本と、翌週の4月2日にはYPP 田んぼ用の緑米の苗代を作りました。何れの日もご近所団体さんから見学者が来られました。また、何れの日も、一粒万倍日+天赦日にあたり、縁起も良いお日柄の様ですので、豊作に向けた良いスタートが切れたのではないのでしょうか?ただ、早くも暴君カモの番が飛来しているので、厳しい戦いも予感されます! 気を引き締めて頑張ってください!

3/26日; 参加4名+見学者2名、4/2日; 参加4名+見学者3名、(何れも大人) 報告: 赤シャツ親父

### 【谷津田・季節のたより】

＜下大和田町＞ 報告: 田村光範

- 3月
- ・下大和田の谷津田にはウグイスの鳴き声が響き渡り、畔には野草が芽吹き土色から緑色に衣替え。田んぼは苗づくりの準備が始まりました。
  - ・田んぼの中ではアカガエルのオタマジャクシやドジョウも出てきて元気に泳いでいます。シュレーゲルアオガエルも冬眠から目覚めて鳴き声が聞こえるようになりました。日に日に暖かくなってきて谷津田は春の訪れを感じます。

＜小山町＞ 報告: たんぽぽ

- 3月2日 ウグイスの初鳴き、昨日までのたどたどしさ一転、小山のあちこちで綺麗に響く。  
5日 春一番。花粉も舞う。 22日気温がぐっと下がり曇降る、翌朝(23日)は田んぼに薄氷。  
26日 最初の苗代作り。シュレーゲルアオガエルの初鳴き響く。

### 【イベントのお知らせ】 主催: NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先: 小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

#### ＜下大和田谷津田＞

・森と水辺の手入れ

日時: 2022年 4月17日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内容: イノシシと大雨で傷めつけられた畔(あぜ)の補修を行います。

持ち物: マスク着用、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費: 無料

・第276回 YPP「田おこし」

日時: 2022年 4月30日(土) 9時45分~12時

内容: 5月7日の田うえに備えて、コシヒカリ田んぼの田おこしを行います。田おこしが終わった田んぼで「谷津田運動会」を実施します。

持ち物: マスク着用、長袖長ズボンの服装、田んぼ用長靴、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費: 米づくり年間参加者以外300円(小学生以上) ※持ち物は以下の5月7日の田うえ作業も同じです

・第268回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日時: 2022年 5月1日(日) 9時45分~12時 雨天決行

内容: 緑深まる晩春の谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津を巡ります。

持ち物: マスク着用、筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費: 100円(小学生以上)

・第277回 YPP「田うえ」

日時: 2022年 5月7日(土) 9時45分~14時 雨天決行

内容: 3月26日に苗床に播種したコシヒカリ、農林1号、赤米、黒米、緑米の苗を田んぼに植え付けます。

参加費: 米づくり年間参加者以外300円(小学生以上)

#### ＜小山町谷津田＞

・小山町 YPP「苗代作り2」および苗代の保全等

4月2日(土)、小学校田んぼとYPP 田んぼの苗代作りを行いました。4月は毎週土曜日に保全作業を行う予定です。

※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、tomizo\_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡下さい。

